

IBM i 2026

IBM i コンテンツ (2026年3月版) IBM i 開発ツールの最前線 IBM Rational Developer for i (RDi) と Visual Studio Code (VS Code) の概要をつかもう

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
Power & Cloud テクニカル・セールス

IBM i 開発ツールの最前線

RDiとVS Codeの概要をつかもう

IBM iは、企業の基幹システムを支える堅牢なプラットフォームとして、長く愛されています。

その一方で、開発の現場に注目すると、「5250画面(SEU)」での開発運用が長年続き、最新のデファクトスタンダードの開発ツールやソリューションを、開発現場に取り込みづらいついて感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「もっと楽に、新しい開発をしたい」そんな想いに応えるツールが、今のIBM iには揃っています。

本コラムでは、IBM公式のフルスペックIDEとして進化を続ける「Rational Developer for i (RDi)」と、モダンな開発スタイルの代名詞となりつつある「Visual Studio Code (VS Code)」をピックアップします。

これら2つのツールは、それぞれどんな強みがあって、IBM i開発スタイルをどうアップデートしてくれるのか。

機能、操作性の違いなどを比較しました。

「ツールを変える」のは少し勇気がいることですが、その先にはきっと、もっと軽やかで楽しいエンジニアライフが待っています。皆さんのチームにとって、最高の「相棒」を見つけるきっかけになれば幸いです。

目次

1. IBM i の開発ツールについて
2. Rational Developer for i (RDi)の概要
3. Visual Studio Code(VS Code) + IBM i Development Pack の概要
4. ツール比較
5. まとめ・ネクストステップ

1. IBM i の開発ツールについて

IBM i の開発ツール 4つの選択肢

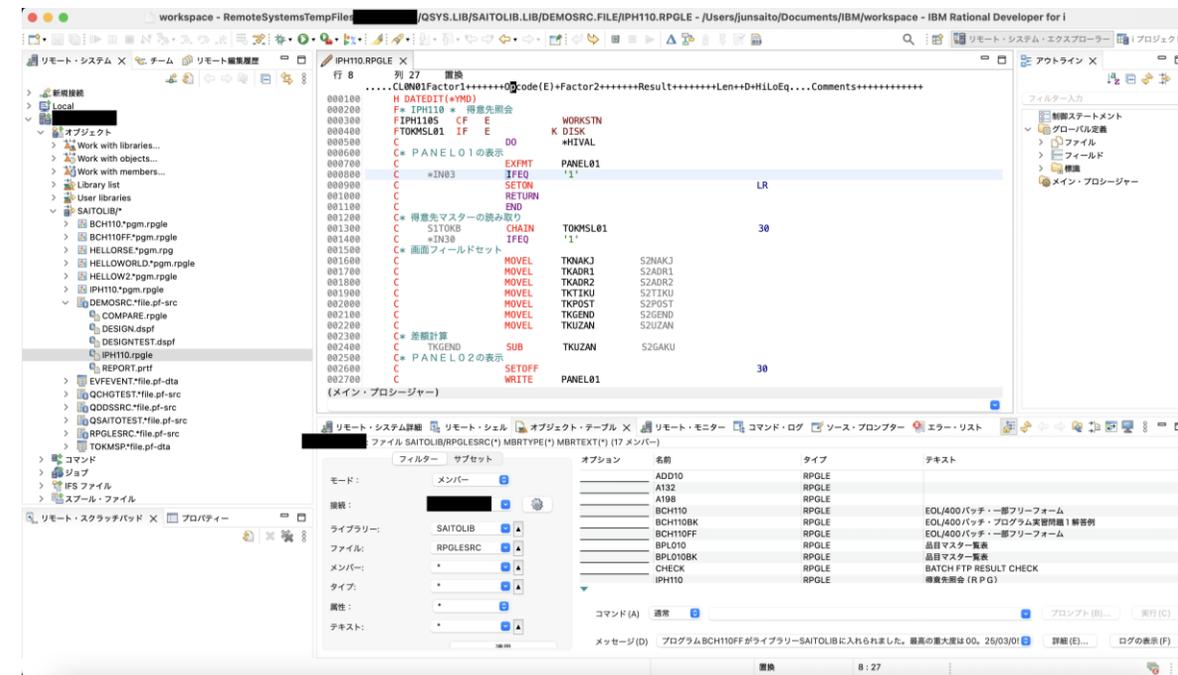
	説明	サポート	費用	対応するIBM i 言語			
				RPG III	RPG IV	FF RPG	COBOL
5250開発環境 (ADTS)	<ul style="list-style-type: none"> ・エディター、デバッガー、画面設計、帳票設計、DB設計などの機能も含んだCUI環境用ツール ※画面設計、帳票設計等は7.6からツールサポート終了 	IBM (SWMA)	有償	○	○	△ ※1	○
IBM Rational Developer for i (RDi)	<ul style="list-style-type: none"> ・GUI環境で使用可能な開発環境 ・Eclipseベースのツール ・桁表示とプロンプト利用可能 ・固定フォームRPGのコーディングも利用しやすい 	IBM (SWMA)	有償	○	○	○	○
VS Code + IBM i Development Pack	<ul style="list-style-type: none"> ・業界標準のIDE(Microsoft社提供) ・Git/IFS連携や軽快な操作性が魅力 ・拡張機能によってIBM i プログラム開発が容易 ・Code foe IBM i 等の主要な拡張機能はOSSとして提供(IBM製品ではない,使用方法などだけIBMサポートあり) 	コミュニ ティサ ポート メイン	無償 (OSS)	△ ※2	△ ※2	○	○
IBM Bob	<ul style="list-style-type: none"> ・VS Codeのfolk(コピー)をして利用する ・AIペアプログラマーとして、設計・開発・テスト・リファクター等を1つの開発統合環境で網羅 ・GA前の製品のためIBM i 連携機能はGA後確認 	GA前	有償	△ ※2	△ ※2	○	○

2. Rational Developer for i (RDi)の概要

Rational Developer for i (RDi)とは



- IBMが提供するIBM i 向け統合開発環境(EclipseベースのIDE)
- 以下機能を提供
 - RPGIII / ILE RPG/ COBOL / CL / DDS / C / C++ / SQL に対応ソース編集
 - コンパイル、デバッグ機能、資産管理ファイル管理
 - RSE(Remote System Explorer)によりIBM i 資産(ライブラリー/メンバー)とIFS(統合ファイル・システム)をGUIで操作可能
 - 多様なパースペクティブ(作業内容によって画面構成を切り替える)が利用可能
- 既存5250資産への対応が簡単
- 動作の安定性に加えて、IBMの公式サポートあり
- 日本語UI対応
- RDi のサポートOS : Windows / macOS
- 最新バージョン : v9.9
- 2026/1/27 利用開始
- 試用版のダウンロードあり
 - 120日間の試用期間
 - アクティベーション・キットを導入することで再導入することなく正式版として使用可能



Rational Developer for i (RDi) とは

- v9.9 新機能
 - Eclipse 4.31 のサポート
 - Git運用を支える「IFSプロジェクト」の強化
 - ACSエミュレーターとの連携強化
 - 接続の信頼性向上
 - RPG / COBOLの更新: 最新の構文サポート
 - Java Toolboxの更新: IBM Toolbox for Javaの最新版が組み込まれ、IBM i リソースへのアクセスが最適化



RDiの画面構成

メニューバー

ツールバー

使用中のパーспекティブ

編集エリア
エディター画面

管理エリア
ナビゲーターペイン
パーспекティブに応じた
情報を表示

情報エリア
オブジェクト情報、
プロンプト、エラーログ、
コマンドログなど
様々な情報を表示

The screenshot displays the IBM Rational Developer for i interface. At the top, there is a menu bar with options like 'ファイル(F)', '編集(E)', 'ソース(O)', 'コンパイル(G)', and 'ナビゲート(N)'. Below the menu bar is a toolbar with various icons. The main area is divided into several panes: a left-hand navigation pane showing a project tree, a central editor window displaying RPGLE code, and a right-hand pane showing a '使用中のパーспекティブ' (Active Perspective) with a tree view of project elements. At the bottom, there is a '情報エリア' (Information Area) displaying a table of project objects.

フィルター	サブセット	オプション	名前	タイプ	テキスト	
			モード :	ADD10	RPGL	
				A132	RPGL	
				A198	RPGL	
			接続 :	BCH110	RPGL	EOL/400 バッチ・一部フリーフォーム
				BCH110BK	RPGL	EOL/400 バッチ・プログラム実習問題1 解答例
			ライブラリ :	BCH110FF	RPGL	EOL/400 バッチ・一部フリーフォーム
			ファイル :	BPL010	RPGL	品目マスター一覧表
				BPL010BK	RPGL	品目マスター一覧表
			メンバー :	CHECK	RPGL	BATCH FTP RESULT CHECK
			タイプ :	IPH110	RPGL	得意先照会 (R P G)
			属性 :			
			テキスト :			

RDiの分析(確認ポイント)

-RDi(v9.8以降)は、IBM i 開発(RPG/COBOL)向けIDEとして提供

- ※v9.6まではJava Editionあり

-ユーザー単位のライセンスコストがかかる

-Eclipse自体がJavaベースであるため、Javaバージョンの影響を受ける場合がある

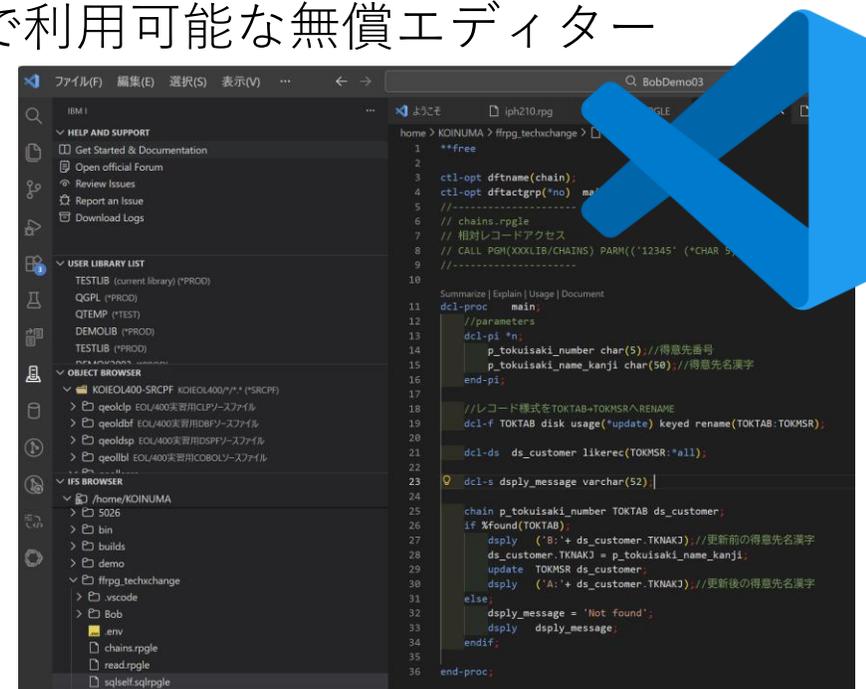
- ACSも同様

-ワークスペース管理や開発用のパーспекティブが多いため、操作や画面構成に慣れるための学習コストがかかる

3. Visual Studio Code(VS Code) + IBM i Development Pack の概要

Visual Studio Code(VS Code)とは

- Visual Studio Code : Microsoft社が提供するさまざまな言語で利用可能な無償エディター
- オープンソースベース(VS Code OSS)
- インストール : <https://code.visualstudio.com/download>
- 軽量 & 高速起動
- 見た目のカスタマイズが柔軟にできる(テーマ・フォント)
- 検索・置換・複数カーソル など編集機能が強力
- サポート OS : Windows / macOS / Linux
- AI拡張(GitHub Copilotなど)との連携が可能
- 拡張機能が豊富(Marketplace)
 - 言語サポート / デバッグ / Git / AI / DevOps 等
 - IBM i Development PackによりIBM i 開発(RPG / COBOL / CL 等)に対応



2026/2 時点のインストール情報

IBM i Development Pack

Code4i  32,436  (4)

Base extensions used for IBM i development in VS Code.

自動更新 

Code for IBM i pre-release

Code4i  70,744  (24)

Maintain your RPGLE, CL, COBOL, C/CPP on IBM i right from Visual Studio Code.

自動更新 

VS Code IBM i 開発の基本的な画面構成

The screenshot shows the VS Code interface for IBM i development. The interface is divided into several key areas:

- アクティビティバー (Activity Bar):** Located on the left side, it contains icons for Explorer, Source Control, Run and Debug, Extensions, Code for IBMi, and Db2 for IBMi.
- エクスプローラー (Explorer):** Shows the file system structure, including libraries like TESTLIB and OBJECT BROWSER.
- Git:** Source control interface for tracking changes.
- デバッグ (Debug):** Run and Debug console for executing and debugging code.
- 拡張機能管理 (Extensions):** Manage installed and available extensions.
- ライブラリーリスト (Library List):** A list of libraries used in the project, such as TESTLIB, QGPL, and DEMOLIB.
- オブジェクトエリア (Object Area):** Displays object details and relationships within the project.
- 編集エリア (編集エリア) / エディター画面 (Editor Screen):** The main workspace for writing and editing source code (e.g., add10.rpgle).
- IFSエリア (IFS Area):** File System Browser showing the local file system structure.
- 情報エリア (Information Area):** Terminal output showing compilation results, including message counts (e.g., 10 warnings) and source statistics (e.g., 35 records).

IBM i のモダンな開発パック

IBM i Development Pack 機能拡張について①

拡張機能	主な機能
Code for IBM i	<ul style="list-style-type: none">・ IBM i との接続、ソースコードの編集、コンパイルなどをサポート
IBM i Languages	<ul style="list-style-type: none">・ ILE RPG、COBOL、CL などのシンタックスハイライトを提供
Db2 for IBM i	<ul style="list-style-type: none">・ VS Code から IBM i に接続し、SQL 機能を提供<ul style="list-style-type: none">・ SQLの実行と結果セットの表示・ スキーマビュー(オブジェクトのブラウズ、カラム情報の確認、SQLの生成支援)・ クエリ履歴・ SQLジョブの管理

IBM i のモダンな開発パック

IBM i Development Pack 機能拡張について②

拡張機能	主な機能
RPGLE	<ul style="list-style-type: none">・ ILE RPGのコーディングを支援する機能<ul style="list-style-type: none">・ コンテンツアシスト・ アウトライン表示・ インデントチェックと再フォーマットを含むリントー(**FREEのみ)・ 固定形式 RPGLE の列アシスト・ 定義と参考に移動または表示する
CL	<ul style="list-style-type: none">・ CL のコーディングを支援する機能を提供。<ul style="list-style-type: none">・ コンテンツアシスト・ アウトライン表示・ 定義と参考に移動または表示する・ CL コマンドのコンテンツ アシストおよびホバー サポート
IBM i Renderer	<ul style="list-style-type: none">・ 画面ファイル(DSPF)とプリンターファイル(PRTF)をプレビュー機能を提供

IBM i のモダンな開発パック

IBM i Development Pack 機能拡張について③

拡張機能	主な機能
IBM i Project Explorer	<ul style="list-style-type: none">・ VS Code上でプロジェクト単位を作り、IBM i 開発を管理・デプロイ(IFS連携)・ビルド(コンパイル)する。・ CI/CDのビルドパイプライン作成のために、TOBiのIBM iにインストールが必要
Source Orbit	<ul style="list-style-type: none">・ Gitなどのツールでも扱いやすい形(テキスト形式・階層構造)に変換して、管理できるようにする機能群、QSYS.LIBベースの構造をIFS上のフォルダー階層に変換も可能
IBM i Debug	<ul style="list-style-type: none">・ IBM i Debug Service と連携して、VS Code 内で IBM i COBOL および RPG アプリケーションのデバッグを支援
IBM i Testing	<ul style="list-style-type: none">・ RPGおよびCOBOLプログラムの単体テストを実行し、コードカバレッジ結果を生成可能。内部的にはRPGUnitテストフレームワークを活用

VS Codeの分析(確認ポイント)

- VS Code本体とIBM i Development Packの拡張機能はIBM製品ではないため、IBM公式サポート外
- ただし、VS Code 拡張機能の使用に関する使い方、構成、および、製品資料に関する質問についてIBM i Extensions for VS Code Enterprise SupportとしてIBMサポート契約あり
 - ※ IBM i Development Packの拡張機能の更新と修正は、オープンソースコミュニティを通じて提供
- 拡張機能(IBM i Development Pack)は発展中
 - 拡張機能の更新頻度が高く、機能追加や不具合修正が早い
 - 最新の拡張機能にした際に一世代前のバージョンへ戻す対応が必要になる場合がある
- 固定フォームRPGのプロンプト機能はSEUほど充実していない
 - 桁位置の確認は可能
- 5250ベースの対話式デバッグ環境はIBM i 日本語環境(DBCS利用)では提供されていない
- IBM i Renderer (DSPF、PRTFデザイナー機能)は現在も開発中
- 従来の5250 / RDi UIに慣れたユーザーには学習コストがある

4. ツール比較

編集・開発支援機能①

項目	RDi	VS Code + IBM i Dev Pack
構文ハイライト	◎ (RPGIII、ILE RPG、FF RPG対応)	○ (ILE RPG固定/FF RPG対応)
コード補完	◎ (Content Assist)	○ (RDi の機能程ではないが有り)
参照検索	○	○ (Go to Definition /References)
アウトライン表示	○	○
エラー表示	◎ (リアルタイム解析)	○ (一部リアルタイム解析、コンパイル結果ベース)
5250接続	○ (ACS連携) (Access Client Solutions (ACS) は RDi 9.9 にバンドルされていません)	× (TN5200で英語環境は統合可能、DBCSは未統合)

編集・開発支援機能②

項目	RDi	VS Code + IBM i Dev Pack
リファクタリング① (FF RPG変換以外)	◎ (名前変更、定数の抽出、プロシージャの抽出、ファイルALIASを使用するための名前変更(ソース内のファイル・フィールドの名前を外部ファイルのフィールド別名に変更する))	○ (FFRPGのみExtract to new procedureで選択コードから新規プロシージャ生成)
リファクタリング② (FF RPG変換)	○	○

デバッグ機能

項目	RDi	VS Code + IBM i Dev Pack
デバッグ対象言語 (IBM i 言語)	○ (RPGIII、ILE RPG、 COBOL、C/C++、CL)	○ (RPGIII、ILE RPG、 COBOL、C/C++、CL)
デバッグ対象PGM種別	バッチ○ 対話型○ (GUI完全統合)	バッチ○ 対話型× (TN5200で英語環境は統合可能 DBCSは未統合)
使用前提	5770WDS option 60 (+ 5733-RDW) 前提PTF適用が必要	5770WDS option + 前提PTF適用が必要
ブレークポイント管理	○ GUI	○ GUI(他言語と同様)

画面・帳票設計支援

項目	RDi	VS Code + IBM i Dev Pack
画面設計	◎ (ディスプレイデザイナー機能で、ビジュアルレイアウト編集可能)	△ (画面設計参照のみ機能あり)
帳票設計	◎ (レポートデザイナー機能で、ビジュアルレイアウト編集可能)	△ (レポート参照のみ機能あり)

ビルド・DevOps対応

項目	RDi	VS Code + IBM i Dev Pack
GUIコンパイル	○	○
Make/自動ビルド	△ (外部ツールで対応)	○ (makei/TOBiによるMakeベースのビルド)
Git統合	○ (EGit pluginで利用可能。 Gitパーспекティブデフォルトであり(v9.9))	◎ (ネイティブ統合)
CI/CD連携(DevOps)	△ (外部ツール(Jenkins等))	◎ (makei / TOBi + CIツール連携：GitHub Actionsなど)

5. まとめ・ネクストステップ

まとめ・ネクストステップ

- RDiとVS Code、改めて比較をすることで、それぞれの個性が分かってきました。
- RDi は、IBM i 開発のすべてを支える「盤石な基盤」
- VS Code は、開発のスピードと楽しさを加速させる「軽快なデファクトスタンダードツール」
- これら是对立するものではなく、お互いを補い合う関係です。

- ネクストステップ：まずは各ツールを触ってみてください。
- 「ツールを変える」のは、最初は少し勇気が必要なことです。
- まずは無償トライアルのRDiまたはVS Codeをインストールして、手元のソースを眺めてみるだけでも、新しい景色が見えてくるはずです。ぜひトライしてみてください。



IBM i 若手技術者コミュニティ IBM i RiSING 参加者募集中！

「技術力向上と情報交換を目的とした若手エンジニアのためのコミュニティ」



4月～10月の半年間で活動

- 年3回IBM主催の全体会議(キックオフ/中間発表/最終発表)
+ 各チームにおける分科会に参加
- RPGモダナイゼーション・Git/VS code活用・生成AI連携・
Node js・パフォーマンス可視化・IBM i 学習支援 等



IBM i の業務経験が10年以内の技術者の方

2024/2025年同活動参加メンバーの継続参加も大歓迎！



© 202



参加登録

<https://ibm.biz/Rising2026Reg>

※ 本活動は研修ではなくコミュニティ活動です。IBM i の基本操作を理解されている方、または今後積極的に学ぶ意欲のある方を前提として参加をお願いしています。



IBM i 関連情報 – 1) スキル関連サイト (2025/12/08 更新)

月イチIBM Power情報セミナー「IBM Power Salon」

<https://ibm.biz/power-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

IBM i リスキリングカレッジ

<https://ibm.biz/ibmireskill2025>

IBM i RiSING - IBM i 若手技術者コミュニティー
2026年度参加者募集ページ

<https://ibm.biz/Rising2026Reg>

<ご参考> 2025年度ページ

<https://ibm.biz/ibmirising2025>

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)

<https://ibm.biz/ibm-power-user-community>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)

<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)

<https://www.i-learning.jp/service/it/iseries.html>

IBM i 研修サービス (ティアンドトラスト社提供)

<https://www.tat.co.jp/cor/COR420P.php>

IBM i 研修サービス (クレスコ・ジェイキューブ社提供)

<https://www.cresco-jcube.co.jp/business/j-cube-academy>

IBM i 研修サービス (ソリューション・ラボ・ジャパン社提供)

<https://www.slj-net.co.jp/sustainable-solutions/rpg/>

IBM i 研修サービス (ソルパック社提供)

<https://www.solpac.co.jp/service/powersystems/TrainingService/>

IBM i 関連情報 – 2) オンデマンド・セミナー (2025/12/08 更新)

IBM i Advantage 2025 オンデマンド・セミナー

2026年1月15日放映開始予定

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2025>

IBM i World 2025 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2025>

IBM i Advantage 2024 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2024video>

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/133917616>

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2023>

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/132423205>

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したのではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引き出すことを意図したのも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したのも、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、POWER10、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Microsoft Excel、Windows NT および Windows ロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM i 関連情報 – 1) 情報サイト (2025/12/08 更新)

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

新・IBM i 入門ガイド [操作・運用編]

<https://www.imagazine.co.jp/01-ibm-i-jikkoukankyou-of-ibm-i-nyumon-guide-sousa-unyou/>

新・IBM i 入門ガイド [開発編]

<https://www.imagazine.co.jp/01-development-tools-of-ibm-i-nyumon-guide-kaihatsu/>

これから使う人のためのIBM i 入門ガイド (旧バージョン)

<https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7071/>

IBM i 製品とサポートのロードマップ

<https://ibm.biz/ibmiroadmap2025>

IBM i 7.6 技術資料 (英語版)

<https://www.redbooks.ibm.com/abstracts/sg248588.html>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」「9105-41B」などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>

IBM Power Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>